



学科・年次	理学療法科 3年次
科目名	症例研究
担当者	杵山哲平、宇治太孝、吉安敏彦
単位数（時間数）	2単位（90時間）
学習方法	講義、実技
教科書・参考書	理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門 PT 学 医学書院 中島雅美著

授業概要と目的	
<p>臨床経験のある理学療法士が担当し、総合臨床実習前に実習で体験する問題について例題を参考に討論を行い、対処方法について学ぶ。また、総合実習終了後には学生が各施設で体験した総合臨床実習において、見学・評価・治療等を担当した様々な症例の理学療法に各自で考察を加え、治療の問題点や具体的な改善方法について臨床場面で再現した状態で討論を行うことで、各種の障害に対する理学療法の科学的な思考方法を教授する。さらにその経験をもとに国家試験専門科目問題の解答の導き方のみに限らず、臨床現場で臨床家として考察すべき事柄を理解、実践できることを目的とする。</p>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「臨床実習での注意点について」 一般目標 1. 実習にて気を付けるべきこと について理解する	「臨床実習前の自己チェック」 到達目標 1. 患者・利用者との会話中の注意点について説明できる 2. 身だしなみの注意点について説明できる 3. 報告・連絡・相談の必要性について理解できる	吉安敏彦
2	後期	「学生として備えておくべき知識と技術について」 一般目標 1. 理学療法評価に関する知識と技術について理解する	「臨床実習前の自己チェック」 到達目標 1. 実習課題の書き方について説明できる 2. 守秘義務、個人情報保護などについて説明できる	吉安敏彦
3	後期	「学生として備えておくべき知識と技術について」 一般目標 1. 理学療法評価に関する知識と技術について理解する	「各検査項目のまとめ」 到達目標 1. バイタルサインの測定について説明できる 2. 形態測定について説明できる	吉安敏彦

			<ul style="list-style-type: none"> <li>3. 関節可動域測定について説明できる</li> <li>4. 徒手筋力検査について説明できる</li> <li>5. 感覚検査について説明できる</li> <li>6. 反射検査について説明できる</li> </ul>	
4	後期	<p>「学生として備えておくべき知識と技術について」</p> <p>一般目標</p> <p>1. 理学療法評価に関する知識と技術について理解する</p>	<p>「各検査項目のまとめ」</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. バランス機能検査について説明できる</li> <li>2. 高次脳機能検査について説明できる</li> <li>3. 動作分析の見るべきポイントについて説明できる</li> </ul>	吉安敏彦
5	後期	<p>「症例研究各論」</p> <p>一般目標</p> <p>1. 脳血管障害の基本的介入手段について理解する</p>	<p>「脳血管障害の理学療法について」</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 急性期の理学療法について説明できる</li> <li>2. 片麻痺に対する理学療法について説明できる</li> <li>3. 痙性麻痺に対する理学療法について説明できる</li> <li>4. Brunstrom 法ステージ法に対応した理学療法について説明できる</li> <li>5. 片麻痺患者の ADL 動作について説明できる</li> <li>6. 片麻痺患者の応用歩行について説明できる</li> <li>7. Brunstrom 法ステージ別の下肢装具について説明できる</li> <li>8. 片麻痺患者の ADL 指導について説明できる</li> </ul>	杵山哲平 宇治太孝
6	後期	<p>「症例研究各論」</p> <p>一般目標</p> <p>1. 脊髄損傷の各髄節における理学療法について理解する</p>	<p>「脊髄損傷の理学療法について」</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 第 5 頸髄損傷の理学療法について説明できる</li> <li>2. 第 6 頸髄損傷の理学療法について説明できる</li> <li>3. 第 7 頸髄損傷の理学療法について説明できる</li> <li>4. 胸髄損傷の理学療法について説明できる</li> </ul>	杵山哲平 宇治太孝

			5. 腰髄損傷の理学療法について説明できる	
7	後期	<p>「症例研究各論」 一般目標</p> <p>1. 脳血管障害の基本的介入手段についてグループワークを通して理解を深め, 他者に説明ができるようになる</p>	<p>「脳血管障害の理学療法について」 到達目標</p> <p>1. 急性期の理学療法について記述でき他者に説明できる</p> <p>2. 片麻痺に対する理学療法について記述でき他者に説明できる</p> <p>3. 痙性麻痺に対する理学療法について記述でき他者に説明できる</p> <p>4. Brunstrom 法ステージ法に対応した理学療法について記述でき他者に説明できる</p> <p>5. 片麻痺患者の ADL 動作について記述でき他者に説明できる</p> <p>6. 片麻痺患者の応用歩行について記述でき他者に説明できる</p> <p>7. Brunstrom 法ステージ別の下肢装具について記述でき他者に説明できる</p> <p>8. 片麻痺患者の ADL 指導について記述でき他者に説明できる</p>	<p>杵山哲平 宇治太孝</p>
8	後期	<p>「症例研究各論」 一般目標</p> <p>1. 脊髄損傷の分野についてグループワークを通して理解を深め, 他社に説明ができるようになる</p>	<p>「脊髄損傷の理学療法について」 到達目標</p> <p>1. 第 5 頸髄損傷の理学療法について記述でき他者に説明できる</p> <p>2. 第 6 頸髄損傷の理学療法について記述でき他者に説明できる</p> <p>3. 第 7 頸髄損傷の理学療法について記述でき他者に説明できる</p> <p>4. 胸髄損傷の理学療法について記述でき他者に説明できる</p> <p>5. 腰髄損傷の理学療法について記述でき他者に説明できる</p>	<p>杵山哲平 宇治太孝</p>
9	後期	<p>「症例研究各論」 一般目標</p> <p>1. 神経筋疾患の概要を理解する</p>	<p>「神経筋疾患の理学療法について」 到達目標</p> <p>1. 筋ジストロフィー、多発性筋炎、重症筋無力症の病態について説明できる</p>	<p>杵山哲平 宇治太孝</p>

		<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 神経筋疾患の理学療法に必要な評価項目について理解する</li> <li>3. 神経筋疾患患者に行う理学療法について理解する</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 筋ジストロフィー、多発性筋炎、重症筋無力症の理学療法に必要な評価項目の説明ができる</li> <li>3. 筋ジストロフィー、多発性筋炎、重症筋無力症の理学療法について説明できる</li> </ol>	
10	後期	<p>「症例研究各論」 一般目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 糖尿病の概要を理解する</li> <li>2. 糖尿病の理学療法に必要な評価項目について理解する</li> <li>3. 糖尿病患者に行う理学療法について理解する</li> <li>4. 閉塞性動脈硬化症、腎疾患に行う理学療法について理解する</li> </ol>	<p>「内部疾患の理学療法について」 到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 糖尿病の病態について説明できる</li> <li>2. 糖尿病の合併症について説明できる</li> <li>3. 糖尿病の理学療法に必要な評価項目の説明ができる</li> <li>4. 糖尿病の運動療法について説明ができる</li> <li>5. 閉塞性動脈硬化症、腎疾患の理学療法について説明できる</li> </ol>	杵山哲平 宇治太孝
11	後期	<p>「症例研究各論」 一般目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 神経筋疾患の分野についてグループワークを通して理解を深め、他者に説明ができるようになる</li> </ol>	<p>「神経筋疾患の理学療法について」 到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 筋ジストロフィー、多発性筋炎、重症筋無力症の病態について記述でき他者に説明できる</li> <li>2. 筋ジストロフィー、多発性筋炎、重症筋無力症の理学療法に必要な評価項目について記述でき他者に説明できる</li> <li>3. 筋ジストロフィー、多発性筋炎、重症筋無力症の理学療法について記述でき他者に説明できる</li> </ol>	杵山哲平 宇治太孝
12	後期	<p>「症例研究各論」 一般目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 糖尿病、閉塞性動脈硬化症、腎疾患の分野についてグループワークを通して理解を深め、他者に説明ができるようになる</li> </ol>	<p>「内部疾患の理学療法について」 到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 糖尿病の病態について記述でき他者に説明できる</li> <li>2. 糖尿病の合併症について記述でき他者に説明できる</li> <li>3. 糖尿病の理学療法に必要な評価項目が記述でき他者に説明できる</li> <li>4. 糖尿病の運動療法について記述でき他者に説明できる</li> <li>5. 閉塞性動脈硬化症、腎疾患の理学療法</li> </ol>	杵山哲平 宇治太孝

			について記述でき他者に説明できる	
13	後期	<p>「症例研究各論」 一般目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 変形性関節症の概要を理解する</li> <li>2. 変形性関節症の理学療法に必要な評価項目について理解する</li> <li>3. 変形性関節症に行う理学療法について理解する</li> </ol>	<p>「変形性関節症理学療法について」 到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 変形性膝関節症の病態について説明できる</li> <li>2. 変形性膝関節症の理学療法に必要な評価項目について説明できる</li> <li>3. 変形性膝関節症の運動療法について説明できる</li> <li>4. 変形性股関節症の病態について説明できる</li> <li>5. 変形性股関節症の理学療法に必要な評価項目について説明できる</li> <li>6. 変形性股関節症の運動療法について説明できる</li> </ol>	<p>杵山哲平 宇治太孝</p>
14	後期	<p>「症例研究各論」 一般目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関節リウマチの概要を理解する</li> <li>2. 関節リウマチの理学療法に必要な評価項目について理解する</li> <li>3. 関節リウマチ患者に行う理学療法について説明できる</li> </ol> <p>上肢の関節疾患の理学療法について理解する</p>	<p>「関節リウマチ、上肢の関節疾患の理学療法について」 到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関節リウマチの病態について説明できる</li> <li>2. 関節リウマチの理学療法に必要な評価項目の説明できる</li> <li>3. 関節リウマチ患者への ADL 指導について説明できる</li> <li>4. 関節リウマチ患者の理学療法について説明できる</li> </ol> <p>上肢の関節疾患の理学療法について説明できる</p>	<p>杵山哲平 宇治太孝</p>
15	後期	<p>「症例研究各論」 一般目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 変形性関節症の分野についてグループワークを通して理解を深め、他者に説明ができるようになる</li> </ol>	<p>「変形性関節症理学療法について」 到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 変形性膝関節症の病態について記述でき他者に説明できる</li> <li>2. 変形性膝関節症の理学療法に必要な評価項目について記述でき他者に説明できる</li> <li>3. 変形性膝関節症の運動療法について</li> </ol>	<p>杵山哲平 宇治太孝</p>

			<p>記述でき他者に説明できる</p> <p>4. 変形性股関節症の病態について記述でき他者に説明できる</p> <p>5. 変形性股関節症の理学療法に必要な評価項目について記述でき他者に説明できる</p> <p>6. 変形性股関節症の運動療法について記述でき他者に説明できる</p>	
16	後期	<p>「症例研究各論」 一般目標</p> <p>1. 関節リウマチ、上肢の関節疾患の分野についてグループワークを通して理解を深め、他者に説明ができるようになる</p>	<p>「関節リウマチ、上肢の関節疾患の理学療法について」 到達目標</p> <p>1. 関節リウマチの病態について記述でき他者に説明できる</p> <p>2. 関節リウマチの理学療法に必要な評価項目の記述でき他者に説明できる</p> <p>3. 関節リウマチ患者への ADL 指導について記述でき他者に説明できる</p> <p>4. 関節リウマチ患者の理学療法について記述でき他者に説明できる</p> <p>上肢の関節疾患の理学療法について記述でき他者に説明できる</p>	<p>杵山哲平 宇治太孝</p>
17	後期	<p>「症例研究各論」 一般目標</p> <p>1. パーキンソン病の概要を理解する</p> <p>2. パーキンソン病の理学療法に必要な評価項目について理解する</p> <p>3. パーキンソン病患者に行う理学療法について理解する</p>	<p>「パーキンソン病の理学療法について」 到達目標</p> <p>1. パーキンソン病の病態について説明できる</p> <p>2. パーキンソン病の理学療法に必要な評価項目の説明ができる</p> <p>3. パーキンソン病患者に対する歩行訓練について説明ができる</p> <p>4. Hoehn&amp;Yahr の重症度分類について説明できる</p> <p>5. Hoehn&amp;Yahr の重症度分類に対応した理学療法について説明できる</p>	<p>杵山哲平 宇治太孝</p>
18	後期	<p>「症例研究各論」 一般目標</p> <p>1. 高次脳機能障害の概要を理解する</p> <p>2. 高次脳機能障害の理学療法に必要な評価項目について理</p>	<p>「高次脳機能障害の理学療法について」 到達目標</p> <p>1. 高次脳機能障害の病態について説明できる</p> <p>2. 高次脳機能障害の理学療法に必要な評価項目について説明できる</p>	<p>杵山哲平 宇治太孝</p>

		<p>解する</p> <p>3. 高次脳機能障害に行う理学療法について理解する</p>	<p>3. 高次脳機能障害の理学療法について説明できる</p>	
19	後期	<p>「症例研究各論」</p> <p>一般目標</p> <p>1. パーキンソン病の評価、理学療法についてグループワークを通して理解を深め、他者に説明ができるようになる</p>	<p>「パーキンソン病の理学療法について」</p> <p>到達目標</p> <p>1. パーキンソン病の病態について記述でき他者に説明できる</p> <p>2. パーキンソン病の理学療法に必要な評価項目について記述でき他者に説明できる</p> <p>3. パーキンソン病患者に対する歩行訓練について記述でき他者に説明できる</p> <p>4. Hoehn&amp;Yahr の重症度分類について記述でき他者に説明できる</p> <p>5. Hoehn&amp;Yahr の重症度分類に対応した理学療法について記述でき他者に説明できる</p>	<p>杵山哲平</p> <p>宇治太孝</p>
20	後期	<p>「症例研究各論」</p> <p>一般目標</p> <p>1. 高次脳機能障害の分野についてグループワークを通して理解を深め、他者に説明ができるようになる</p>	<p>「高次脳機能障害の理学療法について」</p> <p>到達目標</p> <p>1. 高次脳機能障害の病態について記述でき他者に説明できる</p> <p>2. 高次脳機能障害の理学療法に必要な評価項目について記述でき他者に説明できる</p> <p>3. 高次脳機能障害の理学療法について記述でき他者に説明できる</p>	<p>杵山哲平</p> <p>宇治太孝</p>
21	後期	<p>「症例研究各論」</p> <p>一般目標</p> <p>1. 上腕・前腕・大腿骨折について概要を理解する</p> <p>2. 上腕・前腕・大腿骨折の理学療法に必要な評価項目について理解する</p> <p>3. 上腕・前腕・大腿骨折の理学療法について理解する</p> <p>4. 骨折の合併症について理解する</p>	<p>「骨折の理学療法について」</p> <p>到達目標</p> <p>1. 大腿骨頸部骨折の病態について説明できる</p> <p>2. 大腿骨頸部骨折の理学療法に必要な評価項目について説明できる</p> <p>3. 大腿骨頸部骨折患者の理学療法について説明できる</p> <p>4. 上腕骨骨折の病態について説明できる</p> <p>5. 上腕骨骨折の理学療法に必要な評価</p>	<p>杵山哲平</p> <p>宇治太孝</p>



			<p>項目について説明できる</p> <p>6. 上腕骨骨折患者の理学療法について説明できる</p> <p>7. 橈骨遠位端骨折の病態について説明できる</p> <p>8. 橈骨遠位端骨折の理学療法に必要な評価項目について説明できる</p> <p>9. 橈骨遠位端骨折患者の理学療法について説明できる</p> <p>10. 骨折の合併症について説明できる</p>	
22	後期	<p>「症例研究各論」 一般目標</p> <p>1. 各変性疾患の病態を理解する</p> <p>2. 各変性疾患の評価方法を理解する</p> <p>3. 各変性疾患の運動療法を理解する</p>	<p>「変性疾患の理学療法について」 到達目標</p> <p>1. 脊髄小脳変性症、多発性硬化症、筋萎縮性硬化症の病態について説明できる</p> <p>2. 脊髄小脳変性症、多発性硬化症、筋萎縮性硬化症の理学療法に必要な評価項目の説明ができる</p> <p>3. 脊髄小脳変性症、多発性硬化症、筋萎縮性硬化症の理学療法について説明できる</p>	<p>杵山哲平 宇治太孝</p>
23	後期	<p>「症例研究各論」 一般目標</p> <p>1. 骨折の分野についてグループワークを通して理解を深め、他者に説明ができるようになる</p>	<p>「骨折の理学療法について」 到達目標</p> <p>1. 大腿骨頸部骨折の病態について記述でき他者に説明できる</p> <p>2. 大腿骨頸部骨折の理学療法に必要な評価項目について記述でき他者に説明できる</p> <p>3. 大腿骨頸部骨折患者の理学療法について記述でき他者に説明できる</p> <p>4. 上腕骨骨折の病態について記述でき他者に説明できる</p> <p>5. 上腕骨骨折の理学療法に必要な評価項目について記述でき他者に説明できる</p> <p>6. 上腕骨骨折患者の理学療法について記述でき他者に説明できる</p> <p>7. 橈骨遠位端骨折の病態について記述でき他者に説明できる</p>	<p>杵山哲平 宇治太孝</p>

			8. 橈骨遠位端骨折の理学療法に必要な評価項目について記述でき他者に説明できる 9. 橈骨遠位端骨折患者の理学療法について記述でき他者に説明できる 10. 骨折の合併症について記述でき他者に説明できる	
24	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. 変性疾患の分野についてグループワークを通して理解を深め、他者に説明ができるようになる	「変性疾患の理学療法について」 到達目標 1. 脊髄小脳変性症、多発性硬化症、筋萎縮性硬化症の病態について記述でき他者に説明できる 2. 脊髄小脳変性症、多発性硬化症、筋萎縮性硬化症の理学療法に必要な評価項目について記述でき他者に説明できる 1. 脊髄小脳変性症、多発性硬化症、筋萎縮性硬化症の理学療法について記述でき他者に説明できる	杵山哲平 宇治太孝
25	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. 呼吸障害について概要を理解する 2. 慢性閉塞性肺疾患（COPD）の理学療法について理解する	「呼吸障害の理学療法について」 到達目標 1. 呼吸障害の病態について説明できる 2. 呼吸障害における機能検査を説明できる 3. 呼吸理学療法について説明できる 4. 慢性閉塞性肺疾患（COPD）の病態について説明できる 5. 慢性閉塞性肺疾患（COPD）の理学療法に必要な評価項目について説明できる 6. 慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者の理学療法について説明できる	杵山哲平 宇治太孝 8
26	後期	「症例研究各論」 一般目標 1. 末梢神経障害の概要を理解する 2. 末梢神経障害の理学療法に必要な評価項目について理解する	「末梢神経障害の理学療法について」 到達目標 1. 末梢神経障害の病態について説明できる 2. 末梢神経障害の理学療法に必要な評価項目について説明できる 3. 末梢神経障害患者の理学療法につい	杵山哲平 宇治太孝

		3. 末梢神経障害に行う理学療法について理解する	て説明できる	
27	後期	<p>「症例研究各論」 一般目標</p> <p>1. 呼吸障害の分野についてグループワークを通して理解を深め, 他者に説明ができるようになる</p>	<p>「呼吸障害の理学療法について」 到達目標</p> <p>1. 呼吸障害の病態について記述でき他者に説明できる</p> <p>2. 呼吸障害における機能検査について記述でき他者に説明できる</p> <p>3. 呼吸理学療法について記述でき他者に説明できる</p> <p>4. 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の病態について記述でき他者に説明できる</p> <p>5. 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の理学療法に必要な評価項目について記述でき他者に説明できる</p> <p>6. 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 患者の理学療法について記述でき他者に説明できる</p>	<p>杵山哲平 宇治太孝</p>
28	後期	<p>「症例研究各論」 一般目標</p> <p>1. 末梢神経障害の分野についてグループワークを通して理解を深め, 他者に説明ができるようになる</p>	<p>「末梢神経障害の理学療法について」 到達目標</p> <p>1. 末梢神経障害の病態について記述でき他者に説明できる</p> <p>2. 末梢神経障害の理学療法に必要な評価項目について記述でき他者に説明できる</p> <p>3. 末梢神経障害の理学療法について記述でき他者に説明できる</p>	<p>杵山哲平 宇治太孝</p>
29	後期	<p>「症例研究各論」 一般目標</p> <p>1. 内部障害に行う理学療法について理解する</p>	<p>「内部疾患の理学療法について」 到達目標</p> <p>1. がん患者の理学療法について説明できる</p> <p>2. 生活習慣病患者の理学療法について説明できる</p> <p>3. 高齢・廃用性障害の理学療法について説明できる</p>	<p>杵山哲平 宇治太孝</p>

30	後期	<p>「症例研究各論」 一般目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 間脳、脳幹部、小脳障害の概要を理解する</li> <li>2. 間脳、脳幹部、小脳障害の理学療法に必要な評価項目について理解する</li> <li>3. 間脳、脳幹部、小脳障害に行う理学療法について説明できる</li> </ol>	<p>「脳血管障害の理学療法について」 到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 間脳、脳幹部、小脳障害の病態について説明できる</li> <li>2. 間脳、脳幹部、小脳障害の理学療法に必要な評価項目について説明できる</li> <li>3. 間脳、脳幹部、小脳障害の理学療法について説明できる</li> </ol>	<p>杵山哲平 宇治太孝</p>
31	後期	<p>「症例研究各論」 一般目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内部障害の分野についてグループワークを通して理解を深め、他者に説明ができるようになる</li> </ol>	<p>「内部疾患の理学療法について」 到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. がん患者の理学療法について記述でき他者に説明できる</li> <li>2. 生活習慣病患者の理学療法について記述でき他者に説明できる</li> <li>3. 高齢・廃用性障害の理学療法について記述でき他者に説明できる</li> </ol>	<p>杵山哲平 宇治太孝</p>
32	後期	<p>「症例研究各論」 一般目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 間脳、脳幹部、小脳障害の分野についてグループワークを通して理解を深め、他者に説明ができるようになる</li> </ol>	<p>「脳血管障害の理学療法について」 到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 間脳、脳幹部、小脳障害の病態について記述でき他者に説明できる</li> <li>2. 間脳、脳幹部、小脳障害の理学療法に必要な評価項目について記述でき他者に説明できる</li> <li>3. 間脳、脳幹部、小脳障害の理学療法について記述でき他者に説明できる</li> </ol>	<p>杵山哲平 宇治太孝</p>
33	後期	<p>「症例研究各論」 一般目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. スポーツ障害（外傷）の概要を理解する</li> <li>2. スポーツ障害（外傷）の理学療法に必要な評価項目について理解する</li> <li>3. スポーツ障害（外傷）に行う理学療法について説明できる</li> </ol>	<p>「スポーツ障害（外傷）の理学療法について」 到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. スポーツ障害（外傷）の病態について説明できる</li> <li>2. スポーツ障害（外傷）の理学療法に必要な評価項目について説明できる</li> <li>3. スポーツ障害（外傷）の理学療法について説明できる</li> </ol>	<p>杵山哲平 宇治太孝</p>

34	後期	<p>「症例研究各論」 一般目標</p> <p>1. 脳血管障害の臨床的介入について理解する</p>	<p>「脳血管障害の理学療法について」 到達目標</p> <p>1. 症状別の理学療法について説明できる</p> <p>2. 画像所見より病態の説明できる</p> <p>各時期における理学療法介入について説明できる</p>	<p>杵山哲平 宇治太孝</p>
35	後期	<p>「症例研究各論」 一般目標</p> <p>1. スポーツ障害（外傷）の分野についてグループワークを通して理解を深め、他者に説明ができるようになる</p>	<p>「スポーツ障害（外傷）の理学療法について」 到達目標</p> <p>1. スポーツ障害（外傷）の病態について記述でき他者に説明できる</p> <p>2. スポーツ障害（外傷）の理学療法に必要な評価項目について記述でき他者に説明できる</p> <p>3. スポーツ障害（外傷）の理学療法について記述でき他者に説明できる</p>	<p>杵山哲平 宇治太孝</p>
36	後期	<p>「症例研究各論」 一般目標</p> <p>1. 脳血管障害の臨床的介入についてグループワークを通して理解を深め、他者に説明ができるようになる</p>	<p>「脳血管障害の理学療法について」 到達目標</p> <p>1. 症状別の理学療法について記述でき他者に説明できる</p> <p>2. 画像所見より病態について記述でき他者に説明できる</p> <p>3. 各時期における理学療法介入について記述でき他者に説明できる</p>	<p>杵山哲平 宇治太孝</p>
37	後期	<p>「症例研究各論」 一般目標</p> <p>1. 運動発達障害患者の理学療法について理解する</p>	<p>「運動発達障害の理学療法について」 到達目標</p> <p>1. 脳性麻痺の病態について説明できる</p> <p>2. 脳性麻痺の理学療法に必要な評価項目について説明できる</p> <p>3. 脳性麻痺患者の理学療法について説明できる</p> <p>4. Down 症候群の特徴について説明できる</p>	<p>杵山哲平 宇治太孝</p>
38	後期	<p>「症例研究各論」 一般目標</p> <p>1. 体位肺痰法について理解する</p>	<p>「呼吸障害、循環障害の理学療法について」 到達目標</p> <p>1. 体位肺痰法について説明できる</p> <p>2. 種々の呼吸障害の理学療法について</p>	<p>杵山哲平 宇治太孝</p>

		<p>2. 種々の呼吸障害の理学療法について理解する</p> <p>3. 循環障害の理学療法について理解する</p>	<p>説明できる</p> <p>3. 循環障害の理学療法について説明できる</p>	
39	後期	<p>「症例研究各論」 一般目標</p> <p>1. 運動発達障害患者の分野についてグループワークを通して理解を深め、他者に説明ができるようになる</p>	<p>「運動発達障害の理学療法について」 到達目標</p> <p>1. 脳性麻痺の病態について記述でき他者に説明できる</p> <p>2. 脳性麻痺の理学療法に必要な評価項目について記述でき他者に説明できる</p> <p>3. 脳性麻痺患者の理学療法について記述でき他者に説明できる</p> <p>4. Down 症候群の特徴について記述でき他者に説明できる</p>	<p>杵山哲平 宇治太孝</p>
40	後期	<p>「症例研究各論」 一般目標</p> <p>呼吸障害、循環障害の分野についてグループワークを通して理解を深め、他者に説明ができるようになる</p>	<p>「呼吸障害、の理学療法について」 到達目標</p> <p>1. 体位肺痰法について記述でき他者に説明できる</p> <p>2. 種々の呼吸障害の理学療法について記述でき他者に説明できる</p> <p>3. 循環障害の理学療法について記述でき他者に説明できる</p>	<p>杵山哲平 宇治太孝</p>
41	後期	<p>「症例研究各論」 一般目標</p> <p>1. 脊髄損傷の理学療法に必要な評価項目について理解する</p> <p>2. 脊髄損傷患者の合併症について理解する</p>	<p>「脊髄損傷の理学療法について」 到達目標</p> <p>1. 脊髄損傷の理学療法に必要な評価項目について説明できる</p> <p>2. 脊髄損傷患者の合併症について説明できる</p>	<p>杵山哲平 宇治太孝</p>
42	後期	<p>「症例研究各論」 一般目標</p> <p>1. 脊椎疾患の概要を理解する</p> <p>2. 脊椎疾患の理学療法に必要な評価項目について理解する</p> <p>3. 脊椎疾患に行う理学療法について理解する</p> <p>4. 小児整形疾患の理学療法について理解する</p>	<p>「脊椎疾患、小児整形疾患の理学療法について」 到達目標</p> <p>1. 脊椎疾患の病態について説明できる</p> <p>2. 脊椎疾患の理学療法に必要な評価項目について説明できる</p> <p>3. 脊椎疾患の理学療法について説明できる</p> <p>4. 小児整形疾患の理学療法について説明できる</p>	<p>杵山哲平 宇治太孝</p>

43	後期	「症例研究各論」 一般目標 脊髄損傷の分野についてグループワークを通して理解を深め、他者に説明ができるようになる	「脊髄損傷の理学療法について」 到達目標 1. 脊髄損傷の理学療法に必要な評価項目について記述でき他者に説明できる 2. 脊髄損傷患者の合併症について記述でき他者に説明できる	杵山哲平 宇治太孝
44	後期	「症例研究各論」 一般目標 脊椎疾患の分野についてグループワークを通して理解を深め、他者に説明ができるようになる	「脊椎疾患、小児整形疾患の理学療法について」 到達目標 1. 脊椎疾患の病態について記述でき他者に説明できる 2. 脊椎疾患の理学療法に必要な評価項目について記述でき他者に説明できる 3. 脊椎疾患の理学療法について記述でき他者に説明できる 4. 小児整形疾患の理学療法について記述でき他者に説明できる	杵山哲平 宇治太孝
45	後期	「症例研究総論」 一般目標 1. 各疾患に関する問題の理解ができる	「まとめ」 到達目標 1. 各疾患に関する問題について解答できる	杵山哲平 宇治太孝
成績評価方法		テスト試験（100点）		
準備学習など		なし		
留意事項		なし		

学科・年次	理学療法科・3年次
科目名	理学療法総合演習
担当者	杵山 哲平・宇治 太孝
単位数（時間数）	2単位（90時間）
学習方法	講義・グループワーク
教科書・参考書	理学療法士作業療法士国家試験必修ポイント 基礎PT学 医学書院 中島雅美著

授業概要と目的
<p>3年間の学習総まとめとして、臨床経験のある理学療法士が、その経験を活かし基礎・専門分野についてオムニバス形式で講義する。基礎理学療法学について学び、その知識をグループワークにて通してさらに理解を深める。今までに学んだ理学療法概念、疾患別評価方法、治療介入方法を理解し、知識を深めていく。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「専門演習」 一般目標 1. 3年間の学習総まとめとして行う専門演習の進め方について概要を理解する。	「オリエンテーション」 到達目標 1. 専門演習で行う基礎分野について説明出来る。 2. 専門演習で行う臨床医学分野について説明できる。 3. 専門演習で行う専門分野について説明できる。 4.	杵山 哲平 宇治 太孝
2	後期	「専門演習の進め方」 一般目標 1. 知識や理解を深めるための勉強法やグループワークの方法を理解する。	「グループワーク方法論」 到達目標 1. 講義で学んだ知識の整理法を説明できる。 2. 知識を可視化できるようになる 3. グループワークを通して人に説明できるようになる	杵山 哲平 宇治 太孝
3	後期	「理学療法基礎」 一般目標 1. 理学療法基礎分野について理解する。	「エネルギー消費、運動強度、運動負荷量指標」 到達目標 1. エネルギー消費の概要が説明できる。 2. METsについて説明できる。 3. 運動の影響について説明できる。 4. リハ安全基準について説明できる。 5.	杵山 哲平 宇治 太孝 P51-68



4	後期	<p>「理学療法基礎」 一般目標</p> <p>1. 理学療法基礎分野についてグループワークを通して理解を深め、同分野の問題を解くことができる。</p>	<p>「生体力学基礎」 到達目標</p> <p>1. 人体のてこ、モーメントについて具体的に記述できる。 2. 荷重量、トルクについて具体的に記述ができる。</p>	<p>杵山 哲平 宇治 太孝 P51-68</p>
5	後期	<p>「理学療法基礎」 一般目標</p> <p>1. 理学療法基礎分野について理解する。</p>	<p>「歩行分析」 到達目標</p> <p>1. 正常歩行について説明はできる。 2. 歩行時の筋活動について説明ができる。</p>	<p>杵山 哲平 宇治 太孝 P69-88</p>
6	後期	<p>「理学療法基礎」 一般目標</p> <p>1. 理学療法基礎分野について理解する。</p>	<p>「歩行分析」 到達目標</p> <p>1. 異常歩行の原因を説明できる。 2. 予測される運動を体表解剖及び運動学的に分析をすることができる。 3.</p>	<p>杵山 哲平 宇治 太孝 P69-88</p>
7	後期	<p>「理学療法基礎」 一般目標</p> <p>1. 理学療法基礎分野についてグループワークを通して理解を深め、同分野の問題を解くことができる。</p>	<p>「歩行分析、異常歩行、動作解析」 到達目標</p> <p>1. 正常歩行、筋活動について具体的に記述できる。 2. 異常歩行について具体的に記述できる。 3. 予想される動作を解析し、具体的に記述できる。</p>	<p>杵山 哲平 宇治 太孝 P69-88</p>
8	後期	<p>「理学療法基礎」 一般目標</p> <p>1. 理学療法基礎分野についてグループワークを通して理解を深め、同分野の問題を解くことができる。</p>	<p>「歩行分析、異常歩行、動作解析」 到達目標</p> <p>1. 正常歩行、筋活動について具体的に記述できる。 2. 異常歩行について具体的に記述できる。 3. 予想される動作を解析し、具体的に記述できる。</p>	<p>杵山 哲平 宇治 太孝 P69-88</p>
9	後期	<p>「運動療法学」 一般目標</p> <p>1. 運動療法学分野について理解する。</p>	<p>「運動生理」 到達目標</p> <p>1. 運動生理について説明できる。</p>	<p>杵山 哲平 宇治 太孝 P254-268</p>

10	後期	「運動療法学」 一般目標 1. 運動療法学分野について理解する。	「筋力増強訓練、他動運動」 到達目標 1. 筋力増強訓練について説明ができる 2. 他動運動について説明ができる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P254-268
11	後期	「運動療法学」 一般目標 1. 運動療法学について理解する。	「関節可動域訓練、伸張訓練」 到達目標 1. 関節可動域訓練について説明ができる。 2. 伸張訓練について説明ができる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P254-268
12	後期	「運動療法学」 一般目標 1. 運動療法学についてグループワークを通して理解を深め、同分野の問題を解くことができる。	「運動生理、筋力増強訓練、他動運動、関節可動域訓練、伸張訓練」 到達目標 1. 運動生理について具体的に記述ができる。 2. 筋力増強訓練について具体的に記述できる 3. 他動運動について具体的に記述できる。 4. 関節可動域訓練について具体的に記述できる。 5. 伸張訓練について具体的に記述できる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P254-268
13	後期	「運動療法学」 一般目標 1. 運動療法学分野について理解する。	「種々の治療体操」 到達目標 1. 摂食嚥下障害、骨盤底筋群体操、腰痛体操など各種の治療について説明できる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P269-286
14	後期	「運動療法学」 一般目標 1. 運動療法学分野について理解する。	「介入戦略 理学療法介入/徒手抵抗誘導法」 到達目標 1. 各種の理学療法介入法について説明ができる。 2. 各種の徒手抵抗誘導法について説明ができる。	杵山 哲平 宇治太孝 P269-286
15	後期	「運動療法学」 一般目標 1. 運動療法学分野について理解する。	「運動学習」 到達目標 1. 運動学習について説明ができる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P269-286
16	後期	「運動療法学」 一般目標 1. 運動療法学の分野についてグループワークで理解を深め、同分野の問	「種々の治療体操、介入戦略、運動学習」 到達目標 1. 種々の治療体操について具体的に記述ができる。 2. 各種の介入戦略について具体的に記述できる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P269-286

		題を解くことができる。	3. 運動学習について具体的に記述できる。	
17	後期	「物理療法学」 一般目標 1. 物理療法学分野について理解する。	「温熱療法」 到達目標 1. 温熱療法について説明できるようになる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P287-309
18	後期	「物理療法学」 一般目標 1. 物理療法学分野について理解する。	「温熱療法」 到達目標 1. 温熱療法について説明できるようになる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P287-309
19	後期	「物理療法学」 一般目標 1. 物理療法学分野について理解する。	「低周波療法」 到達目標 1. 低周波療法について説明できる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P287-309
20	後期	「物理療法学」 一般目標 1. 物理療法分野分野についてグループワークを通して理解を深め、同分野の問題を解くことができる。	「温熱療法、低周波療法」 到達目標 1. 温熱療法について具体的に記述できる。 2. 低周波療法について具体的に記述できる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P287-309
21	後期	「物理療法学」 一般目標 1. 物理療法学分野について理解する。	「水中運動療法、寒冷療法、適応と禁忌」 到達目標 1. 水中運動療法について説明できる。 2. 寒冷療法について説明できる。 3. 疾患別の適応と禁忌について説明できる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P310-320
22	後期	「物理療法学」 一般目標 1. 物理療法学の分野についてグループワークを通して理解を深め、同分野の問題を解くことができる。	「水中運動療法、寒冷療法、適応と禁忌」 到達目標 1. 水中運動療法について具体的に記述できる 2. 寒冷療法について具体的に記述できる。 3. 物理療法の適応と禁忌について具体的に記述できる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P310-320

23	後期	「ADL」 一般目標 1. ADL の分野について理解する。	「生活環境論、疾患別 ADL 指導」 到達目標 1. ADL 指導について説明できる。 2. 自助具について説明できる。 3. 疾患の指導について説明できる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P344-357
24	後期	「ADL」 一般目標 1. ADL の分野についてグループワークを通して理解を深め、同分野の問題を解くことができる。	「生活環境論、疾患別 ADL 指導」 到達目標 1. 生活環境論について具体的に記述できる。 2. 疾患別の ADL 指導について具体的に記述できる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P344-357
25	後期	「義肢装具学」 一般目標 1. 義肢装具学分野について理解する。	「断端管理、義足部品」 到達目標 1. 断端管理について説明できる。 2. 義足について説明できる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P358-380
26	後期	「義肢装具学」 一般目標 1. 義肢装具学分野について理解する。	「義足部品、異常歩行」 到達目標 1. 義足について説明できる。 2. 大腿義足/下腿義足の異常歩行について説明できる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P358-380
27	後期	「義肢装具学」 一般目標 1. 義肢装具学の分野について理解できる。	「大腿義足装着での ADL 動作訓練」 到達目標 1. 義足装着での ADL 訓練について説明できる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P358-380
28	後期	「義肢装具学」 一般目標 1. 義肢装具学の分野についてグループワークを通して理解を深め、同分野の問題を解くことができる。	「切断、義足部品、異常歩行、義足装着での ADL 動作訓練」 到達目標 1. 切断について具体的に記述できる。 2. 義足部品について具体的に記述できる。 3. 義足の異常歩行について具体的に記述できる。 4. 義足同着での ADL 動作訓練について具体的に記述できる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P358-380
29	後期	「ADL」 一般目標 1. ADL の分野について理解する。	「ADL/IADL の概念と分類、FIM」 到達目標 1. ADL/IADL の概念と分類について説明できる。 2. FIM の採点方法や各項目の定義が説明できる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P321-343

30	後期	「ADL」 一般目標 1. ADL の分野について理解する。	「BI、SF-36、老研式活動能力」 到達目標 1. BI の採点方法や各項目の定義について説明できる。 2. SF-36 の内容を説明できる。 3. 老研式活動能力について説明できる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P321-343
31	後期	「ADL」 一般目標 1. ADL の分野について理解する。	「リハ関連機器」 到達目標 1. 車椅子、歩行器、杖などリハ関連補助具について説明できる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P321-343
32	後期	「ADL」 一般目標 1. ADL の分野についてグループワークを通して理解を深め、同分野の問題を解くことができる。	「FIM、BI、SF-36、老研式活動能力、リハ関連機器」 到達目標 1. FIM、BI の採点方法や各項目の定義について具体的に記述できる。 2. SF-36 について具体的に記述できる。 3. 老研式活動能力について具体的に記述できる。 4. リハ関連機器について具体的に記述できる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P321-343
33	後期	「理学療法概論」 一般目標 1. 理学療法概論について理解する。	「理学療法関係法規」 到達目標 1. 関係法規について理解する。 2. 個人情報保護法について理解する。	杵山 哲平 宇治 太孝 P28-50
34	後期	「理学療法概論」 一般目標 1. 理学療法概論の分野について理解する。	「理学療法概論」 到達目標 1. 介護保険法について理解する。	杵山 哲平 宇治 太孝 P28-50
35	後期	「理学療法概論」 一般目標 1. 理学療法概論分野について理解する。	「理学療法概論」 1. リスク管理について説明できる。 2. 診療ガイドラインについて説明できる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P28-50
36	後期	「理学療法概論に」 一般目標 1. 理学療法概論の分野についてグループワークを通して理解を深め、同分野の問題を解くことができる。	「理学療法関係法規、個人情報保護法、介護保険法、リスク管理、診療ガイドライン」 到達目標 1. 関係法規について具体的に記述できる。 2. 個人情報保護法について具体的に記述できる。 3. 介護保険法について具体的に記述できる。 4. リスク管理について具体的に記述できる。 5. 診療ガイドラインについて具体的に記述でき	杵山 哲平 宇治 太孝 P28-50

			る。	
37	後期	「義肢装具学」 一般目標 1. 義肢装具学分野について理解する。	「下肢装具」 到達目標 1. 下肢装具について説明できる。 2. 下肢装具の適応について説明できる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P381-409
38	後期	「義肢装具学」 一般目標 1. 義肢装具学分野について理解する。	「体幹装具」 到達目標 1. 体幹装具について説明できる。 2. 体幹装具の適応について説明できる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P381-409
39	後期	「義肢装具学」 一般目標 1. 義肢装具学分野について理解する。	「上肢装具」 到達目標 1. 上肢装具について説明できる。 2. 上肢装具について説明できる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P381-409
40	後期	「義肢装具学」 一般目標 1. 義肢装具学の分野についてグループワークを通して理解を深め、同分野の問題を解くことができる。	「下肢装具、体幹装具、上肢装具」 到達目標 1. 上肢装具について具体的に記述できる。 2. 体幹装具について具体的に記述できる。 3. 下肢装具について具体的に記述できる。 4. 各装具の適応について具体的に記述できる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P381-409
41	後期	「理学療法概要」 一般目標 1. 理学療法概要について理解する。	「ICF、対人コミュニケーション」 到達目標 1. ICFについて説明できる。 2. 対人コミュニケーションについて説明できる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P4-27
42	後期	「理学療法概要」 一般目標 1. 理学療法の概要について理解する。	「研究法」 到達目標 1. 研究法について説明できる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P4-27

43	後期	「理学療法概要」 一般目標 1. 理学療法概要分野について理解する。	「研究法」 到達目標 1. 研究法について説明できる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P4-27
44	後期	「理学療法概要」 一般目標 1. 理学療法概要の分野についてグループワークを通して理解を深め、同分野の問題を解くことができる。	「ICF、対人コミュニケーション、研究法」 到達目標 1. ICFについて具体的に記述できる。 2. 対人コミュニケーションについて具体的に記述できる。 3. 研究法について具体的に記述できる。	杵山 哲平 宇治 太孝 P4-27
45	後期	「基礎理学療法学」 一般目標 1. 国家試験過去問題について理解する	「総括」 到達目標 1. これまで学んだ内容について列挙する 2. 総合実習で体験した事案と比較・検討する	杵山 哲平 宇治 太孝
成績評価方法		科目試験（100%）		
準備学習など		なし		
留意事項		なし		

学科・年次	理学療法科 3 年
科目名	臨床実習Ⅲ（総合）
担当者	奥地伸城、小出悠介、辻智之、青木浩代、櫻井泰弘、小川祐太、林尚宜
単位数（時間数）	16 単位（720 時間）
学習方法	実習（医療・介護施設における実習）
教科書・参考書	

授業概要と目的
<p>3 年間の学習の総決算として、臨床実習指導者のもとで、理学療法の基本的技能の習得と実践を行い、評価・治療計画・治療の実際の業務を理解する。医療専門職として責任ある態度・行動をとり、職業人としての在り方を学ぶ。医療施設にて臨床経験のある理学療法士がその経験を活かし実習を進めていく</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
臨床実習 Ⅲ	通年	<p>「臨床実習Ⅲ（総合）」 一般目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>各臨床実習施設における理学療法および理学療法士の役割と機能を学ぶとともに、管理・運営業務を学ぶ。</li> <li>臨床実習指導者の指導・援助のもとに、実習生が対象児・者を全体的に把握するために必要な評価方法を選択し、理学療法を計画・実施し、その記録報告、再評価という一貫した理学療法過程を修得する。</li> <li>他の職員とのチームワークを体得する。</li> <li>理学療法を学ぶ学生として、今後の進むべき方向などを考える。</li> <li>前職業人としての基本的態度を習得し、理学療法士として</li> </ol>	<p>「臨床実習Ⅲ（総合）」 到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>対象者や他部門から必要な情報を収集できる。</li> <li>評価技法の実施をすることができる。</li> <li>全体像を把握し問題点を抽出することができる。</li> <li>評価中、安全性を確保できる。</li> <li>適切な記録を書くことができる。</li> <li>治療計画を立てることができる。</li> <li>事前に必要な物品を準備することができる。</li> <li>治療内容を対象者に説明することができる。</li> <li>計画に沿った治療内容を実施することができる。</li> <li>治療中安全性を確保できる。</li> <li>各種提出物が期限内に提出することができる。</li> <li>記述・口頭での報告が適切にできる。</li> <li>実習に対して意欲的・積極的に学習できる。</li> </ol>	各専攻教員



		ふさわしい資質の向上・充実をはかる.	<ul style="list-style-type: none"> <li>14. 職場内での人間関係を円滑に保つことができる。</li> <li>15. 日常の規律を自覚し、守っていく態度をとれる。</li> <li>16. 感情・情緒面で安定した態度をとれる。</li> <li>17. 対象者の人権を尊重できる。</li> <li>18. 守秘義務を守ることができる。</li> <li>19. 対象者との関係を成立させることができる。</li> <li>20. 緊急時又は問題解決ができない時に援助を求めることができる。</li> </ul>	
成績評価方法	実習指導者によって実習到達目標に基づいた評価点と学内実施する実習後評価の評価点を平均して可否を判定する。			
準備学習など	臨床実習前には 3 年次までに学んだ内容全てについて復習するとともに、患者・利用者、施設の指導者など関係者すべてと円滑なコミュニケーションが取れるようにしておくこと。			
留意事項	受け身的な態度ではなく、積極的に指導者等に働きかけ、疑問や問題を解決すること。			